

## 【ご案内】

### 第17回 遺伝カウンセラーのための実践集中講座 ～がん診療の中で働くことを目指して～

国立病院機構四国がんセンター主催「第17回遺伝カウンセラーのための実践集中講座」を開催致します。本講座は、主に遺伝カウンセラーコースの学生の方や現在勉学中の認定遺伝カウンセラーの方を対象に、遺伝性腫瘍の診療を行う際に必要なより正確な知識の習得、遺伝カウンセリング技術の向上を目指すものです。遺伝性腫瘍の診療でより高いレベルを目指される方には是非お集まりいただきたいと思っております。

なお「セミナー期間が長いので参加しにくい」という声をうけ、少しでも多くの方に参加いただけるような開催形式を今回から取り入れてみました。フル参加（7日間）以外に、基本編（前半3.5日間）もしくは応用編（後半3.5日間）のみの参加というパターンで準備しています。是非ご参加をご検討下さい。

国立病院機構四国がんセンター  
遺伝性がん診療科医長 山本弥寿子

主催：国立病院機構 四国がんセンター  
後援：日本遺伝性腫瘍学会

1. 日時：2024年8月14日（水）13時～8月20日（火）13時
2. 場所：国立病院機構四国がんセンター（〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲160番）
3. 講座概要
  - 1) 講師  
田村智英子（FMC 東京クリニック/順天堂大学医学部附属順天堂医院 遺伝相談外来 認定遺伝カウンセラー）  
松田 圭子（地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 認定遺伝カウンセラー）  
金子 景香（がん研有明病院 臨床遺伝医療部 認定遺伝カウンセラー）  
その他（四国がんセンター 認定遺伝カウンセラー、医師、看護師等）
  - 2) 講座内容 ※資料1をご確認ください
4. 対象要件
  - ①遺伝カウンセラー養成課程の大学院生または修了生
  - ②認定遺伝カウンセラー
  - ③その他（上記以外で遺伝性腫瘍診療の関連業務に従事または従事予定）
5. 参加方法  
参加方法は①全日程参加の他に、②基礎編のみ、③応用編のみの3通りから選択可能です。  
ただし③応用編のみ参加の場合は、参加要件※があります。参加要件に当てはまらないが③応用編のみ参加を希望される場合、個別に検討しますのでご連絡ください。

※応用編のみ参加の要件：以下のイ）またはロ）に該当する場合

- イ）認定遺伝カウンセラー以外または学生で、過去に①全日程または②基礎編のみに参加したことがある
- ロ）認定遺伝カウンセラーとして既に勤務している方

## 6. 修了要件

- ①適宜の課題が提出できること（申請時、事前/事後に課題提出あり）
- ②適宜の課題が合格基準に達していること

## 7. 定員：基礎編・応用編ともに各6名

※応募多数の場合、対象要件①を優先とし、現況レポートを基に選考します

## 8. 受講費：

- ① 全日程参加：学生 2,000 円 社会人 20,000 円
- ② 基礎編のみまたは③応用編のみ参加：学生 1,500 円 社会人 15,000 円

## 9. 研修申込

期日内に申込はフォーム入力および現況レポートを提出してください。**〆切：6月17日（月）12時**

### 1) 研修申込フォーム入力

以下の URL または QR コードから研修申込フォームにアクセスの上ご入力ください。

※必ず添付可能なメールアドレスをご登録ください。

【申込 URL】 <https://forms.gle/eVnVhu69j4ETxcoz7>



### 2) 現況レポート提出

以下の項目について内容および現時点での到達度を%で記載してください。

レポート右上に所属・氏名を明記し沿ってレポートを作成し、メール添付(PDF)で提出してください。

- ① あなたがこれまでに遺伝性腫瘍について学んだこと
- ② あなたが遺伝性腫瘍に関する実践でできること/業務で実際にやっていること
- ③ あなたが遺伝性腫瘍の臨床において大切だと思うこと
- ④ あなたがこのセミナーで学び、できるようになりたいこと/業務で求められていること

研修終了時、同じ項目の到達度自己評価を行い研修評価の指標にさせていただきます。

例) 研修前：家系情報から適切なリスク評価ができる（研修前到達度 45%）→（研修後到達度 65%）

## 10. 宿泊

### 1) 施設

希望者には、病院敷地内の宿泊施設「向日葵」をこちらで手配いたします。

研修申込フォームに、宿泊施設の利用の有無をご入力ください。

※向日葵 HP : <https://shikoku-cc.hosp.go.jp/hospital/about/facility/himawari/>

### 2) 宿泊費

学生 1,000 円/泊 社会人 2,640 円/泊

### 3) その他

来場には公共交通機関をご利用ください。※伊予鉄道横河原線沿線が便利です。

外部の宿泊施設を利用の場合、ご自身での手配をお願いいたします。

#### 11. 昼食

希望者には、平日分のみ昼食（1食分/410円/自己負担）をこちらで手配いたします。

研修申込フォームに、昼食希望の有無をご入力ください。

※院内にコンビニや食堂がありますが、研修スケジュールが過密なため、事前申込がお勧めです。

#### 12. 個人情報

受講に際する個人情報（氏名・メールアドレス・所属・立場等）は企画側および研修生間で共有させていただきます。研修以外の目的で使用することはありません。

#### 13. 受講決定通知等

**受講可否は7月1日（月）12時まで**に、メールでお知らせいたします。

受講決定者には、振込方法等の連絡事項をメールでお知らせいたします。

**資料2**にある事前課題を期限内に提出してください。

#### 14. 問合せおよび現況レポート提出先 四国がんセンター（遺伝性がん診療科）

TEL : 089-999-1111（代表）

E-mail : okamura.miki.et★mail.hosp.go.jp

『★を@マークに変えてください』

※ 件名「第17回遺伝講座」と表記してください

## 2024年度 遺伝カウンセラーのための実践集中講座\_科目一覧

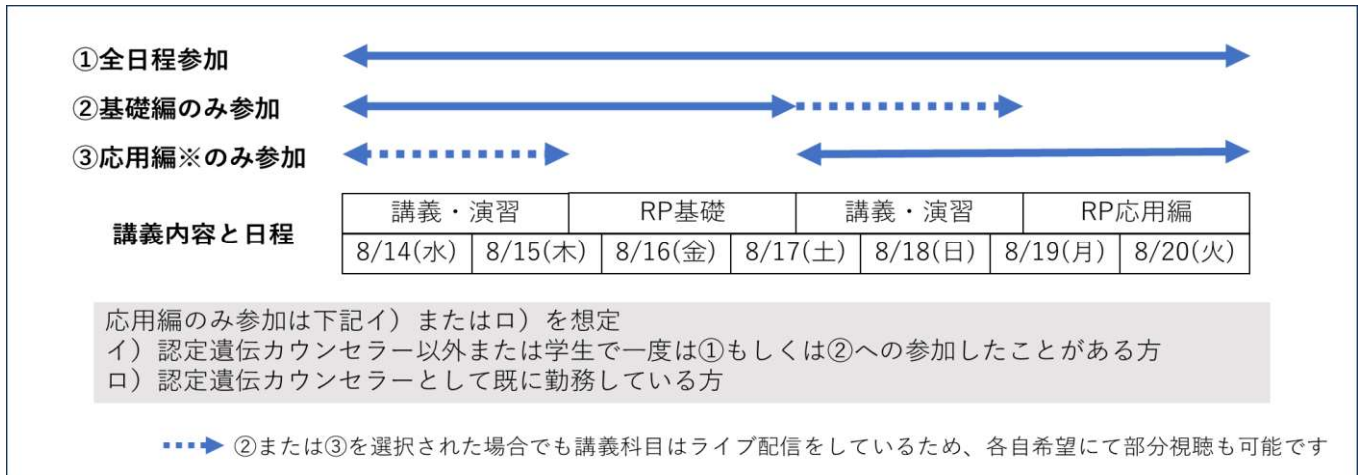
日程	科目種別	配分目安	科目名	目標
基礎編 8月14日 ～ 8月17日	医学一般	60分	がん医療総論	がんの生物学的な特徴・治療に関する基本的な知識を習得する
	医学一般	30分	乳がん総論	乳がんの疫学・治療の知識を習得する
	医学一般	30分	大腸がんの外科的治療の概要	大腸がんの外科的治療の知識を習得する
	医学一般	30分	大腸がんの内科的治療の概要	大腸がんの薬物療法に関する知識を習得する
	医学一般	30分	婦人科がん総論	婦人科がん（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん）の疫学・治療原則の知識を習得する
	医学一般	45分	がん薬物療法総論	がん化学療法の意義・各種薬剤の作用機序の知識を習得する
	医学一般	30分	遺伝性腫瘍における腫瘍学基礎※	がん診療に必要な知識・用語を整理する
	医学一般	30分	遺伝性腫瘍に関連する検査（CGP、CDx等）※	がん診療に関連する遺伝子が絡む検査の意義や対象、遺伝性腫瘍との関係について知識を取得する
	見学	30分	患者家族支援センター暖だん	暖だん（患者家族総合支援センター）の紹介
	遺伝専門	50分	遺伝性腫瘍における基本概念※	遺伝性腫瘍診療を行う上で基本となる情報提供・心理支援・遺伝カウンセリングの考え方の知識を習得する
	遺伝専門	30分	家族歴聴取と家系図作成	遺伝性腫瘍における家族歴聴取のポイントの知識を習得する
	遺伝専門	30分	遺伝性腫瘍のリスク評価※	遺伝性腫瘍のリスク評価に必要な知識・考え方を学ぶ
	遺伝専門	30分	家系図の遺伝的リスク評価（事前課題の確認）	受講者が提出した事前課題の確認。実際に家系図からリスク評価を行う
	遺伝専門	180分	遺伝性腫瘍の基本事項（ファクトシート）	主要な遺伝性腫瘍（HBOC・Lynch症候群・Li-Fraumeni症候群・FAP等）の基本事項の知識を習得する
	演習	60分	家系図の遺伝的リスク評価※	様々な模擬家系図を用いて、遺伝性腫瘍のリスク評価スキルを習得する
	演習	600分	ロールプレイ基礎編	HBOCやLynch症候群など日常診療で頻度の高い遺伝性腫瘍に関する情報提供を中心とした、導入から終わりまで一連を通して行うロールプレイ演習。遺伝カウンセリングの基礎スキルを習得する
応用編 8月17日 ～ 8月20日	医学一般	45分	医療統計・がん登録※	がん診療で用いられる医療統計の基礎、がん登録の知識を習得する
	医学一般	30分	がん相談支援と社会保障制度	がん患者・家族の相談支援体制と遺伝性腫瘍診療の中でも活用可能な社会保障制度の知識を習得する
	医学一般	45分	ナラティブの視点から遺伝性腫瘍を理解する※	遺伝性腫瘍診療における公認心理士の役割や当院での活動、ナラティブの視点を学ぶ
	医学一般	45分	遺伝性腫瘍診療における看護師の役割	遺伝性腫瘍診療における多職種連携の一旦を担う看護師の役割・活動を知る
	医学一般	30分	四国がんセンターでの遺伝カウンセラーの役割	四国がんセンターでの遺伝カウンセラーの活動を知る
	遺伝専門	180分	がん診療における遺伝情報の活用	生殖細胞系列および体細胞遺伝子検査の日本・海外での変遷や基本的知識、バリエーションの病的意義の解釈、DTC遺伝子検査等の知識を習得する
	遺伝専門	180分	遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリングにおける心理社会論	遺伝カウンセラーによる遺伝性腫瘍の患者・家族の心理社会的問題とその援助の概要について、心理カウンセリング理論等を含めた知識を習得する
	演習	60分	バリエーション解釈（データベースの活用）※	データベースを活用しバリエーションの病的解釈の確認スキルを習得する
	演習	600分	ロールプレイ応用編	単なる情報提供から一歩進んだ、遺伝性腫瘍診療での心理社会的支援を含む遺伝カウンセリングを目指すロールプレイ演習。遺伝カウンセリングの応用スキルを習得する

※：未確定の部分があり、講義名や内容が変更となる可能性がございます。

講義や演習のスケジュール構成は下図のようになります。

参加方法は【①全日程 ②基礎編のみ ③応用編のみ】いずれかをお選びください。

講義科目はライブ配信での視聴を選択可能ですが、ロールプレイ（RP）は現地のみとなります。



**【事前課題/事後課題】 ※受講決定者のみ**

本講座では遺伝に関する基礎知識は既に習得済みであることを前提とし、実践的な演習形式を中心に行います。そのため下記の事前課題を行い、事前課題1のみ事前に提出してください（応用編のみ参加の場合は不要）。研修の事後課題についても掲載していますので、ご確認ください。

**【事前課題1】家系図作成とそのリスク評価についてレポートを作成する（メール添付提出）**

※応用編のみ参加の場合、事前課題1は不要

友人・知人など周囲の方を1名選び、家族歴を聴取し家系図を作成してください。さらにその家系図の内容から、遺伝性腫瘍の可能性を評価しレポートを作成してください。

受講決定者には、本課題の参考資料として以下3点をメール配信しますのでご参照ください。

※【見本】事前課題2（家系図とリスク評価）、【参考資料①】、【参考資料②】、【参考資料③】

※提出方法：PDF 添付しメール提出

〆切 7月29日（月）12:00

**\* 注意事項**

家系図作成およびリスク評価レポート作成に際し以下のような点に注意してください。

- ① 他者が聴取した情報ではなく、必ずご自身で聴取した情報から作成してください。
- ② 家系図の方式は、米国 NSGC（添付の文献を参照）に準じてください。
- ③ 用紙は A4 横書。家系図とリスク評価レポート各 1 枚の計 2 枚（裏表にせず各 1 枚で印刷）
- ④ 手書可ですが、コピーしますのでボールペン等を使用してください（鉛筆不可）。  
本講座内で共有するので、見やすい字の大きさと、用紙全体を広く使ってわかりやすく書いてください。
- ⑤ 実際にカルテに綴じ込むことを想定したり、研修でコピーしたりすることを考慮し、記号の中を塗りつぶす際には、色分けではなく白黒で判別できるよう工夫し、用紙の周囲は 2 センチ程度の余白をとってください。
- ⑥ 家族歴は 15～20 分程度で聴取できる範囲の情報で結構です。家系員全員の年齢や性別等がすべて細かく書かれていなくてもかまいません。遺伝性腫瘍の可能性を評価するのに必要な情報が聴取できているかどうかを確認します。
- ⑦ リスク評価レポートは数行程度で結構ですので、家系図とは別用紙に記述してください。
- ⑧ 家系図およびリスク評価レポートともに、右上に聴取年月日・受講生の氏名を明記してください。

**【参考資料】**

- ① Bennett RL et al (1995). Recommendations for Standardized Human Pedigree Nomenclature. Journal of Genetic Counseling. 4(4): 267-279.
- ② Bennett RL et al (2008). Standardized Human Pedigree Nomenclature: Update and Assessment of the Recommendations of the National Society of Genetic Counselors. Journal of Genetic Counseling. 17: 424-433.
- ③ Bennett RL et al (2022). Practice resource-focused revision: Standardized pedigree nomenclature update centered on sex and gender inclusivity: A practice resource of the National Society of Genetic Counselors. Journal of Genetic Counseling. 00:1-11.

**【事前課題2】以下の7項目について基本事項を整理しレポートを作成する（提出不要）**

①家族性大腸ポリポーシス（FAP）、②リンチ症候群、③遺伝性乳がん卵巣がん、④リー・フラウメニ症候群、⑤フォンヒッペルリンドウ病、⑥多発性内分泌腫瘍症1型（MEN1）、⑦多発性内分泌腫瘍症2型（MEN2）の7項目について基本事項を整理しレポート作成してください。事前提出は不要ですが、研修当日にご持参ください。書式は、受講決定者メールに添付される『【様式】疾患別基本事項整理シート』をご利用ください。

本課題に際し、「NCCN ガイドライン」の資料、「GeneReviews」のサイトを参照してください。その他、それぞれのがんの診療ガイドライン等も参考にしてください。

**\* 参考資料：NCCN ガイドライン (<http://www.nccn.org/>)**

上記 URL より NCCN (National Comprehensive Cancer Network) のサイトにアクセスの上、アカウント登録を行い（無料）、以下のガイドラインをご自身でダウンロード入手してください。

- ① NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology “Genetic/Familial High-Risk Assessment: Breast, Ovarian and Pancreatic” version3. 2024
- ② NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology “Genetic/ Familial High-Risk Assessment: Colorectal” version2. 2023
- ③ NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology “Neuroendocrine and Adrenal Tumors” Version1. 2023

※最新版ではありませんが、日本語版は下記 URL よりダウンロードできます [登録不要]。

<https://www2.tri-kobe.org/nccn/>

**\* GeneReviews (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK11116/>)**

日本語版：<http://grj.umin.jp/>

**\* 多発性内分泌腫瘍症サイト (<http://men-net.org/medical/guidance.html>)****\* 参考図書**

- ・大腸癌研究会編、遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2020 年版、金原出版株式会社、2020 年
- ・厚生労働科学研究がん対策推進総合研究事業研究班編、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）診療の手引き 2017 年版、金原出版株式会社、2017 年

【WEB 版】<http://johboc.jp/guidebook2017/> ※CQ 1 が改定されました。

- ・遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）診療ガイドライン 2021 版、金原出版株式会社、2021 年

**【事後課題】以下の内容についてレポートを作成し提出してください（メール添付提出）**

『本講座で学んだことを振り返り、その中で気づいたこと、勉強になったこと、今後どのように現場で生かしていくかについて考察しまとめる』

※提出方法：A4 1-2 枚程度 PDF 添付しメール提出

〆切 9月9日（月）12:00

**問合せおよびレポート提出先**

四国がんセンター（遺伝性がん診療科）

E-mail：[okamura.miki.et★mail.hosp.go.jp](mailto:okamura.miki.et★mail.hosp.go.jp) 件名「第17回遺伝講座」と表記してください。

『★を@マークに変えてください』